

## 高齢者施設におけるレクリエーション活動とその問題点

— とくに有料老人ホームの場合（事例報告） —

○上野 幸（㈱余暇問題研究所） 山崎律子（㈱余暇問題研究所）

キーワード：高齢者施設 レクリエーション活動 有料老人ホーム

### I. はじめに

わが国は、すでに高齢社会に突入していることは衆知である。世界的にも21世紀は「高齢者の世紀」とも呼ばれている。2025年には、65歳以上が4人に1人となり、2050年には、3人に1人も推測されている。このような時代の中で、高齢者のレクリエーション活動に関して、より深く研究されていくことが望まれるであろう。また、個人的にも、周囲に高齢者が存在するようになり、その必要性を強く認識した。

### II. 研究の目的

高齢者は職業に従事しなくなると、生活の中で自由時間と生活必需時間の占める割合が大きくなる。この長い自由時間を、人生においても有意義で楽しい時間とするためにレクリエーション活動は重要な意味を持つといえよう。

さらに、高齢者のレクリエーション活動には次の視点をもってすすめられていくことが必要であると思われる。

1. 集団の活動だけでなく、個々へのアプローチが考えられていること。
2. レクリエーション活動を通して、人や地域との関わり、社会参加の機会が得られていること。
3. レクリエーション活動の中で、個々人が役割と責任をもっていること。

本研究では、以上の視点をもって、事例研究として埼玉県にあるS有料老人ホームにおけるレクリエーション活動の現状と問題点を考察しようというものである。

### III. 研究の方法

1. 調査対象 埼玉県のS有料老人ホーム
2. 調査方法 職員による活動報告書・月間スケジュール・施設内の情報誌等の資料  
職員への面接調査および入居者への面接調査（10名）
3. 調査期間 1997年7月～8月

### IV. 対象施設の概要

埼玉県大宮市で1989年1月に設立した介護付きの有料老人ホーム。私鉄沿線で駅から8分の都市型。建物は、鉄筋コンクリート5階建て、居室は各戸独立しキッチン、トイレ、浴室が完備されている。共同施設として、レストラン、室内プール、大浴場、茶室、喫茶室、図書室、アトリエ、ビリヤード室、シャッフルコート場、農園、娯楽室、和室集会室（フローリングに改装）が完備されている。

入居者数は、平成9年7月現在で101室124名、職員は常勤30名、非常勤38名で合計68名である。（表1および表2）

表1 入居者の年齢構成 (人)

年齢構成(歳)	男性	女性	合計
65~69	0	7	7
70~74	4	14	18
75~79	11	36	47
80~84	10	19	29
85~89	10	11	21
90~	1	1	2
合計	36	88	124

( ' 97,7月現在)

表2 職員の構成 (人)

構 成	常 勤	非常勤
管理部門 事務	4	
リビングサービス部門	6	1
健康管理部門		
看護婦	1	9
ケアスタッフ	6	8
レストラン部門		
調理士(栄養士)	5	
配膳		18
施設管理部門 警備 管理人	8	2
合 計	30	38

## V、結果

1. 職員への面接により下記のことが得られた。

1) 施設の方針は、①豊かに長生きしてもらう。

②介護の必要がないようにしていく。の2点であった。

2) 活動の方針及び目的は、

①四季を感じてもらう

②外に出て体験できないことや、これまでに体験したことのないものを体験してもらう。

③前年度と同じものはなるべく実施せず、前年度の反省をふまえて、さらに工夫をして計画を立てる。

④屋外の活動をなるべくとり入れる、という4点であった。

3) 活動の状況・・・主な活動は表3のような状況である。

・サークル — 入居者発足型と職員提供型があり、前者は参加者の出欠状況等をチェックしている以外は入居者の自主運営である。当初は、身体の柔らかさなどで参加者どうしの対抗心が強かったが、最近の良い雰囲気でお互いに話しながら実施するようになった。

・講習会 — 入居者の希望を聞いて講師を招いている。1993~94年に施設側より、「生き生き健康大学講座」(東京都総合老人研究所)が実施された。

・その他・・・職員と入居者との協議会や施設活用の活性化を図る活動もおこなわれている。

「運営協議会」 — レクリエーション活動を含め施設内全般の事柄を職員と、入居者の委員(半年間ずつ順番に依頼される7戸の入居者)が年4回話し合いをもつ。

「菖蒲湯、ゆず湯」

「図書フェア」 — 地域の図書館より団体利用で100冊の本を借り、図書室にて貸し出しを実施。

「演奏会」 — 演奏者を招きロビー等でコンサートを実施。

「水泳デモンストレーション」 — 見学により動機づけや泳法の見直しを実施。

表3 S有料老人ホームにおけるレクリエーション活動('96.4~'97.3)

分類	おもな活動	分類	おもな活動
身体型	シャッフルボード大会 (11回/11,0人)	移動型	日帰り旅行 (5回/13,4人)
	スポーツ大会 (1回/22人)		一泊旅行 (2回/13,5人)
	サークル シャッフル (60回/8,7人)		初詣バスツアー (1回/10人)
	フォークダンス (49回/12,5人)		グルメツアー (1回/5人)
	太極拳 (50回/7,7人)	自然型	お花見 (1回/46人)
	水中体操 (89回/3,7人)	社交型	春の懇親会 (1回/77人)
ストレッチ体操 (84回/6,5人)	敬老パーティ (1回/107人)		
文化祭 (発表者72人)	クリスマスパーティ (1回/94人)		
サークル 民謡愛好会 (45回/3,9人)	保育園お遊戯会 (3回/31,0人)		
コーラスの会 (9回/4,5人)	ナイトラウンジ (2回/48,5人)		
文化型	8周年記念セミナー (1回/29人)	懇親会 (39回/7,4人)	
	水彩画教室 (12回/3人)	奉仕型	雑巾づくり('97.5月より月1,2回/6人)
	大正琴定例講座 (22回/5人)	装飾づくり (5回/19,4人)	
教養型	麻雀大会 (2回/26人)	イベント型	お餅つき (1回/76人)
	カラオケ教室 (24回/5,9人)		雑祭やお茶会 (1回/28人)
娯楽型	ウイークエンドシネマ (11回/9,8人)		夏祭り (1回/79人)
	サマーナイトシネマ (1回/43人)		大宮花火大会 (1回/30人)
	サークル 麻雀サークル (48回/4,2人)		
	囲碁同好会 (49回/1,8人)		

( ) 内は年間実施回数/参加者平均

2. 入居者への面接調査・・・入居者10名の面接の中から主な入居者のものをまとめた。

Aさん(68才、女性)

フォークダンスを8年やっています。皆で笑いながら楽しくやっていますよ。点字のボランティアや飾り付けなどで忙しくて時間が足りないです。やめなさいと言われるのがつらいから自分の能力を見極める時が必要ね。あーくやしいなと思うけど仕方がない。でも、年をとるのは初めての経験だから、自分で自分を研究してるんです。

Bさん(80才、女性)

私の場合は才能っていうのがなくて、何をやっても追いつかないんです。フォークダンスを週1回、太極拳は、並んでやってるんですけど、前の人のを見てやってるだけで大正琴も、気がまぎれるからやらしてもらってるけど、その程度だから、時間が余っちゃうんです。8年前と比べると自分でもわかるくらい体力は落ちているし、意欲もないし、年だなあって感じる。自転車で公園へ出かけるのが好きです。買物は外へ歩いて行っています。

Cさん(76才、女性)

ここに入居する前から太極拳を習っていたので、先生にお願いして来てもらっていたのですが、だんだん人数が減ってきたので、現在はこちらから声をかけて10人くらいのサークルを無料ではじめ、先生を頼まず自由に楽しく動いています。家の中でもなるべく物を近くに置かず、歩くようにしています。絵も8年、通信講座で続けてます。その他にフォークダンス、麻雀・・・週に1回でも体を動かすと気持ちいい。あまりくどくど余計なことをしゃべらないようにしています。これからやりたいこと・・・そうね・・・国内旅行くらいかな。今度、三大祭りツアーに行くの。旅行と一緒にいく相手がなかなかいないね。足を丈夫にして、いつまでも元気で旅行に行けたらいいな。

#### Dさん(73才、男性)

設立時からシャッフルボードのコートがあって、指導してもらい、今は自分たちでやっています。シャッフルボードは個人の責任で出来るので、気のあった仲間と楽しくやっています。頭をもよく使うのでボケ防止になるし、勝ち負けは言わないことにしている。郡山へ年1～2回シャッフルをやりに行くんですが、他の所へもよってきます。最近、強すぎて対戦相手がなかなか見つからないですね。他でシャッフルをやっている人が少ないみたいです。ここでも調べてもらったんですけど・・・嫌なことは何もあります。

#### Eさん(88才、女性)

今は、コーラスと俳句と俳画を趣味でやっています。俳画は人に差し上げると、とても喜ばれるので、それが生きがいになっているんですよ。会う度にグチばかり言っている人やどこかが痛いとか言う人はいやねえ。自分でここを選んで来たんだから、おかしいですよね。私が80才で入居した時は、もっと出来たように思うんだけどねえ・・・

### VI. 考察とまとめ

1. 活動状況や職員の面接から見られるように、本研究対象のS有料老人ホームでは、個人へのアプローチも数々のレクリエーション活動を通して行われているといえる。ただし、職員の活動方針にもあるように、全体的には自然型の活動が増えるとより望ましいと思われる。
2. 保育園との活動のように地域との関わりは、入居者の社会参加の機会として意味のある活動であると思われる。特に、世代間の交流は子供たちが高齢者を理解する機会としても、今後必要と思われる。また、シャッフルボード等の活動を通して、地域や社会と関わる機会を今後増やしていくことが望まれる。
3. 週2～3回のサークル活動へ参加していても、なかなか時間が埋まらないと話す入居者(Bさん)とサークル活動のことをいきいきと話す入居者(A・C・Dさん)との違いは、サークル内での役割や責任の有無であると思われる。6～8年目を迎えているサークルは、メンバーが固定化しつつあり、それぞれのメンバーのサークル内での役割も明確になってきていると思われる。そのうえ、サークルのリーダーの多くは、すでに指導者としての役割も兼ねている。
4. 職員と入居者の年齢差から、お互いに理解されにくい点もあるかと思われるが、常勤、非常勤すべての職員が、入居者ひとりひとりの状況やレクリエーション活動を理解し、運営していくことが望ましいと思われる。
5. S有料老人ホームにおけるレクリエーション活動は、本研究の視点において、大変素晴らしい活動と運営状況にあり、ひとつのモデルとなり得るものと思われる。さらに、現状の活動の変化や入居者の加齢等を考えると、専門家が関わることで、より良いプログラムの展開が可能であると考えられる。

今回の研究では、S有料老人ホームの入居者全員に面接する機会が得られなかったことと、他の有料老人ホーム等高齢者の施設においても研究をすすめていくことを今後の課題としたい。